



楽しくて力のつく学校

石部小学校 校報 第61号

平成25(2013)年12月13日



電話：77-2030

Fax：77-6733

ご支援ありがとうございます

今年度も、石部学区教育後援会の多大なるご厚志により、公費ではまかなえない教育備品等を購入させていただきました。次にご紹介するとともに、心より御礼を申し上げる次第です。本当にありがとうございました。大切に使用させていただきます。



①カラー拡大機 1台



②メガホン 2台



③カラーインク

①カラー拡大機

主に、授業に必要な視覚情報をカラーで拡大し、子どもたちの意識を集中させ学習意欲を高めるために活用させていただいています。

②メガホン (2台)

学校災害時にわかりやすく指示を出したり、安全に集団行動を行うなど、子どもの安全を守るために活用させていただきます。

③カラーインク

教科指導の際、カラーによる印刷物を作成し、より実物に近いものを提示して、子どもの理解や思考を助けることに活用させていただいています。

石部小学校の「文化の日」・11/16(土)

<音楽会>



聴く人々を魅了した音楽会。感動をありがとう！！

どの学年も、精一杯の演奏を披露してくれました。

1年生は、一生懸命練習して難しいリズムを自分のものとし、体一杯を使って音楽を表現す

る喜びを表してくれました。2年生は、少しお兄さん・お姉さんになって、歌の意味を考えながら、明るく元気に歌ってくれました。3年生は、とても声が出ていて、一人ひとりが力を合わせて頑張っている様子がよく伝わるステージでした（3年生は、11/15の市音楽会に、学校代表として出場してくれました。）。4年生になると歌唱力がぐんとアップ。声が安定して心身ともに成長している様子がよく伺えました。5年生は、さらに、声に美しさがプラス。難しい曲も見事にこなし、素晴らしい表現力でした。そして、最終は6年生の堂々の演奏。発声の技能が格段にあがり、高音部が大変きれいで、「心」で歌うことができました。また、打楽器が大変力強く、合奏全体を引き締め、盛り上げてくれました。アンコールにも応えて、2回目も一生懸命演奏してくれました。

音楽会が終わって週明けの火曜日(月曜日は振替休業でした)、お出会いする地域の方々より、「音楽会、よかったですね!!」「感動的でした。」「難しい曲を上手に演奏してくれて、本当にすばらしかった。」というようなお声を一杯いただきました。

体を鍛え、感性を磨き、勉強に励んだ2学期でしたが、12月も半ばを過ぎ、2013年もあと10日余りです。この2学期、自分自身はどうであったかをよく振り返り、今年度のまとめの学期である「3学期」へとつないでいってほしいものです。

＜サタデー・スクール＞・みんなでチャレンジ！！

音楽会の午後は、PTAの皆様による「サタデー・スクール」。14もの講座が設けられ、子どもたちは、お家の方と一緒に、楽しいひとときを過ごしました。



14の講座の内、「物づくり」に関係するものが9講座、スポーツに関連するものが2講座、クッキングが1講座、ゲームが1講座、クイズが1講座とバラエティーに富む大変魅力的な講座を用意していただきました。



実行委員の皆様のアイディア、そして、パワフルな行動力には敬服するばかりです。本当にありがとうございました。

＜緊急避難訓練＞

サタデースクール終了後には、緊急避難訓練を実施。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。昨今の子どもたちを取り巻く状況は、大変厳しいものがあります。不審者との遭遇、かつて経験したことのない自然災害（急激な天候の変化や大地震）、交通事故等、子どもたちは実に多くの危険に囲まれて生活しています。

子どもたちだけで下校することが危険であると判断した場合には、お家の方に迎えに来ていただかなければなりません。このとき最も大切なことは、「子どもたちを保護者に確実に引き渡す。」ということ。「どうなったかわからない児童がいる。」ということは絶対にあってはならないことです。名簿によるチェックなど、時間がかかりましたが、趣旨をご理解をいただき、無事に終了することができました。これからも子どもたちの安全確保について、ともに考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

師走に入り、朝夕の冷え込みが大変厳しくなってきました。寒い中を毎日、見守っていただいております見守りボランティアの皆様、本当にありがとうございます。お陰をもちまして、平成25年も大過なく過ごすことができました。心より感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

「食を考える」

食生活が欧米化して久しいですが、健康食としての和食が見直され、世界的にも注目を集めています。日本の食文化に触れ、もう一度そのよさを学び、日々の生活に生かしていく意識を高めていきたいものです。

餅つき (11/22)

5年生が10月に収穫した餅米で「餅つき」を行いました。応援団・保護者の方々のご協力とご支援により、一人ずつ杵をもってお餅をつき、「あんこもち」「きなこもち」「おろしもち」の3種類の味を楽しみました。小麦・卵・乳製品といった身近な食材が原因でアレルギーになっている人が多い中で、わたしたちの主食である「米」がアレルギー源になっている人は本当に少ないと聞いています。「カロリーが高く消化の良いお餅」を身近な食べ物として見直すことは大変意義のあることではないでしょうか。

魚を食べよう (11/28)

更正保護女性会を初め、11名の地域の方々に「魚の上手な食べ方」を教えていただきました。11月28日の給食のメニューは、「さんまの塩焼き」「いかと里芋の煮物」「すまし汁」「牛乳」そして、「栗ご飯」。「秋の味覚『さんま』を上手に食べて、味わう。」という目的で、4年生が「魚の上手な食べ方」を教わりました。『さんま』をお箸で軽く数カ所押さえる。→背骨にそって身をむしる。→身の端にある骨を除く・・・の順序で食べると良い。など、わかりやすく教えていただきました。

魚の食べ方を教わるということだけでなく、普段ご一緒できない方々をお迎えしての給食ということで、なんとなく非日常の「新鮮な給食タイム」。4年生にとっても、教えに来てくださった皆様にとっても、心の和むひとときではなかったかと思います。ありがとうございました。



交通安全教室 (1/21)

1年生～4年生が、指導員の方から安全な歩行や自転車走行について教えていただくとともに、学校周辺の道路を実際に歩いたり自転車に乗ったりする練習を行いました。普段通り慣れている道路ですが、子どもたちは、応援団の皆様や警察・市の生活安全課の方々に見守られながら、真剣に取り組むことができました。

道路を横断するときの注意として、子どもたちは次のようなことを教えてもらいました。



これから交通教室に出発です。

いずれも、石部中央の交差点です。

- ①手を挙げないと、車からは子どもの姿が見えないので、必ず手を挙げて渡ること。
- ②道を渡るときは、右・左・右と注意深く確認すること。
- ③自転車の前輪部を横断歩道に出さないこと。自転車は手前にひくようにもち、身を乗り出す形で右・左・右と、確認すること。

子どもたちは道路を急いで渡りがちですが、十二分に安全確認をして渡ってほしいと思います。また、最近気になっていることは、信号待ちのときに、道路側に背を向けて、路側帯に腰をおろす子が多いことです。大変危険ですので、横断のときの注意事項と併せて、ご家庭でもご指導くださるようお願いいたします。

マラソン大会 (12/6)

12月にしては比較的穏やかな日となった6日、大勢の保護者の皆様の応援の中、マラソン大会が行われました。学校周辺のマラソンコースを、1・2年生は1.000m、3・4年生は2.000m、5・6年生は3.000mを走りました。子どもたちは長休みや体育の時間に一生懸命練習に励み、自己のベスト記録に挑戦。走りの得意な子も不得意な子も最後まで頑張りました。ゴール近くでは友だちを励まし応援する声や我が子を激励する親御さんの声が響き、大変活気のあるマラソン大会となりました。



子どもたちの体力の低下は、改善があまり見られない状況が続いています。「走る」という基本的な運動を継続して行い、そのシンプルな方法により生涯スポーツの基礎を築き、体力づくりに役立ててほしいと願っています。

***応援団の皆様、走路管理にご協力いただき、本当にありがとうございました。**

☆平成25年度全国学力学習状況調査から②☆

今回は、前月号でお知らせしました、本校児童の国語の学力課題の一つ、「日常生活に根ざした言葉についての知識や、正しく漢字を読んだり、漢字で書いたりする力が弱いこと」について考えたいと思います。言葉は、日常生活におけるさまざまな言語活動・「話す」「書く」「聞く」「読む」ことにより習得していきます。よく耳にしたり使ったりする言葉は、自然に身につけていきます。つまり、常日頃から、言葉を交わし合う生活を送ることが大切です。言葉を使う活動は、学校生活はもちろんのこと、家庭生活も含めて、あらゆる生活の場面に広がっています。学校の国語の授業では、4つの観点「話す」「書く」「聞く」「読む」の4つの活動を偏りなく取り入れ、多様な学習方法により力をつけていくことを目指しています。

ご家庭におかれましては、ご家族と子どもさんとの会話を大切にいただきたいと思います。テレビを少し消してその日の出来事を話し合ってみてください。お祖父さんやお祖母さんがおられる場合には、子どもにお祖父さんやお祖母さんとの会話もさせてください。お祖父さんやお祖母さんのお話・表現には、長い人生で蓄えられた知恵と豊かさがあります。「ああ、こんな言葉があるんだ。これはこんな意味なんだ。」という小さな発見が、子どもたちの力になります。その日の出来事を日記に書き続けていくことも力になります。

今年4月に問題として出されたことわざは「急がば回れ」です。残念ながら、このことわざの意味の正答率はよくありませんでした。「草津から京都へ向かうにあたり、矢橋から琵琶湖を横断する海路が近くて速いだけでも、比叡山から吹き下ろされる突風により危険であるから、瀬田の唐橋を渡って陸路でいく方が安全である。」旨の歌を、室町時代の連歌師・宗長が詠んだことが、このことわざの語源になっていることは有名です。先人の知恵や生き方に触れる機会を子どもたちにもたせることも大切なことだと考えます。

漢字の読み書きの習得については、まず、学校で読み方・書き順を正しく学ぶことが大切です。そして、習熟するためには、家庭での復習が欠かせません。何度も書いて覚えるといった「練習量」も大切ですが、その漢字が使われている言葉を覚えたり、実際にその漢字を使って文章を書いたりすることが大切です。本校には、「学びづくり部会」「こころづくり部会」という2つの研究チームがあります。「学びづくり部会」で、家庭学習のあり方について研究を進めたいと考えています。併せて、ご家庭におかれましては、規則正しい生活（前月号でもお知らせしましたが、本校では、起床・就寝の時刻が一定でない傾向があります。）と家庭での学習習慣の確立に努めていただきますよう、よろしくお願いいたします。